

# エリア ウェブ

峡東教育事務所  
地域教育支援スタッフ  
TEL 0553-20-2737  
FAX 0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増し刷り配布はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

ご意見・ご感想はこちらまで Email : saegusa-aszn@pref.yamanashi.lg.jp



## 「おめでとう」

3月になると、きまって思い出す詩があります。小学校6年生が、卒業文集に載せた詩です。

### 「教室」

3月の教室は、今まで生活していた人たちが  
出て行ってしまふからさみしい。

でも、新しく入ってくる人たちを迎え入れ、  
再びにぎやかになるのを待っている。

この時期、教室は、うれしいとさみしいが  
入り混じる。

卒業、入学、進級、職員の異動等によって、  
教育に関わる現場では、この詩のような情景が  
あちらこちらで見られます。

毎年くり返される姿ではありますが、喜び、  
悲しみ、寂しさ、希望、期待、不安、さまざま  
な感情が交錯して、何とも言いようのない感動  
が生まれます。

卒園式、卒業式はその感動が最高潮に達する  
時でしょう。あふれる涙を抑えきれなくなるこ  
ともしばしばです。この一年間は、まさにこの  
日のためにあったような気さえます。

わが子が卒園、卒業の対象ともなれば感動は  
ひとしお。ひとまわり大きく成長したように見  
えるわが子を前にして、子育ての苦勞が一挙に  
報われたように思えます。

たとえ、よその子どもであったとしても、い  
つもととは違って緊張した面持ちで式場に向かう  
姿や、証書を胸にしてほっと安堵したような、  
幾分誇らしげな姿を見かけると、自分のことの  
ようにうれしく感じられます。

そんな時、「おめでとう」と声をかけてみよう  
ではありませんか。通りがかりの人からの声か  
けに戸惑いながらも、きっと、「ありがとうございます  
」の言葉が返ってくるはずです。

卒業の日を迎えた本人は、誰もが、「一番自分  
は頑張った」と思っています。周囲の大人たち  
がどのような基準で見ようとも、当人は今日  
という日を迎えるために、精一杯頑張ってきた  
のです。「おめでとう」、「よかったね」、「頑  
張ったね」、という言葉の中には、子どもたちの  
頑張りを認める気持ちが込められています。

一方、子どもたちの心は、一つのことをやり  
終えた達成感であふれています。だからこそ、  
子どもたちは素直な気持ちで、「ありがとうござい  
ます」という言葉を返してくるのです。

家族、友人、先生はもとより、直接に関わり  
がない人であっても、いつも、自分に関心の目  
を向けてくれているという実感が、子どもたち  
に社会の一員であることの意識を育てます。

思春期を迎える子どもの心は傷つきやすいも  
のです。時として、孤独や不安のあまり自分を  
見失いかけている少年に、「君は一人じゃない」  
「君は必要とされる人間なんだ」と声を大にし  
て訴えても慰めにしかなりません。

それよりも、頑張った自分、一つのことをや  
り遂げた満足感に浸っている自分の、まさにそ  
の瞬間をとらえてかけてくれる一言の方がどれ  
ほどかうれしいことでしょう。

「おめでとう」、「ありがとうございます」、  
その言葉を交わし合うことで、すべての子ども  
たちに新たなエネルギーが充足されて、次のス  
テップに元気よく踏み出して行くことを願っ  
ています。

春の鳶

寄りわかれては

高みつつ

飯田龍太



# 「携帯電話を考える」

先頃、子どもの携帯電話をめぐる次のような報道がありました。

・・・1月30日、文科省は全国の公立学校の取り組み状況を公表。同時に、これを受けて、国としては初めて「小中学校は持ち込みを原則禁止」、「高校は校内での使用の禁止」という指針を決定。さらに、携帯電話やネットの危険性の教育、ネットいじめなどへの対応の徹底を含め、全国都道府県教育委員会に通知・・・。(1月31日付朝日新聞一部抜粋)

卒業や進学・進級を控えて、また、学年末休業を前にして、携帯電話を持たせるかどうか迷ったり検討したりすることが多いと思います。そこで、今回、子どもと携帯電話をめぐるさまざまな問題や、問題への対応について考えてみたいと思います。

## 1. 進化した携帯電話

今や、携帯電話は単なる移動電話ではありません。iモードの登場(1999)により、インターネットと融合し、WEBサイト上で不特定多数の人たちとコミュニケーションが行えるようになって以来、携帯電話は生活に最も密着したネットワークコンピュータに進化しました。また、それは、人と人との関係を変化させるほどに社会的な影響力を持った情報通信メディアに変貌しています。

## 2. 携帯電話がもたらす問題の数々

### 【学校裏サイト】

インターネット上に、中高生の利用を想定した学校非公式サイトのことで、その中で様々な書き込みや情報交換が行われ、ネットいじめの温床となっています。

### 【出会い系サイト】

主に、男女の出会いを目的としたサイトで、自己紹介やメールアドレスを交換することで交流を深めていきます。さらに発展して、現実に顔を合わせる場合も少なくなく、悪意を持った人物が参加している場合、売春や児童ポルノといった事件に巻き込まれる危険性があります。

### 【プロフ】

「プロフィール・サイト」の略で、簡単にネット上で自己紹介ページを作成でき、ストーカー行為やネットいじめの材料に使われる可能性があります。最近、プロフを出会い系サイトのように悪用される事件が頻発しています。実名や住所といった個人情報に掲載しないことはもとより、住所や学校、クラスが特定されるよう

な情報にも注意が必要です。

### 【ブログ、ホームページ】

ネットで作成できる日記帳のようなものです。「エントリー」と呼ばれる記事を掲載すると、それに対してブログ閲覧者が「コメント」を付けられる仕組みになっていて、コメント欄が不特定多数の人との情報交換の場となります。

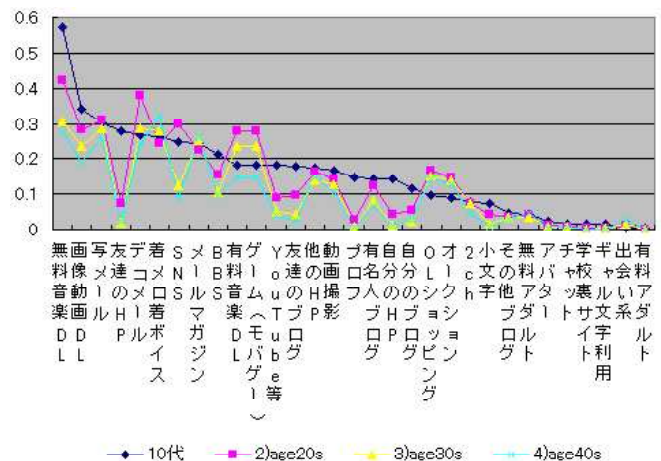
2月、お笑いタレントのブログに根拠のないデマを書き込んで誹謗中傷をしたとして、全国に住む18人が名誉毀損の疑いで書類送検されたという事件は記憶に新しいところです。

ホームページは「ホームページ」の略称です。ケータイ独自に発展を遂げ、ブログと同様のコメント書き込み機能を持っています。「コメントを勝手に消された」ことをめぐって子どもたちの間でトラブルが発生しています。コメントの削除をめぐってケンカに発展したり、「仲間外れ」と見なされることがあるようです。

### 【有害情報】

グラフに示す通り、利用率は低いものの、違法行為や不適切な薬物利用、中傷や自殺・家出等の主張、アダルト画像や性風俗、ギャンブル、出会いや異性紹介、グロテスク、オカルト、宗教勧誘、喫煙・飲酒や水着下着画像、コスプレ等危険な利用の実態があります。

世代別利用サービス率



3. 18.3%, 24.3%, 59.0%, 95.2%

これは何の数字がお分かりになりますか。それぞれ、小学校3・4年, 5・6年, 中学生・高校生の携帯電話の平均保有率を表しています。

- ・普及率20% 利用している人がいることを意識する。
- ・普及率40% 自分も利用したいと思う。
- ・普及率50%以上 周りがみんな使っているから、仲間はずれになりたくないと思う。

携帯電話は、eメールの交換をしてくれる友だちの多くが利用していれば楽しく便利なものになります。これを「ネットワーク効果」といいますが、中学入学を契機に保有率は一挙に高まり、携帯電話の利用環境が大きく変化します。

#### 4. 情報通信メディアの急激な変化

今や、人と人の関係をつなぐコミュニケーションの根底に携帯電話が入っているのは誰もが認めるところでしょう。その普及のスピードが急であったため、変化を受けとめる社会と情報通信メディアとの間に著しいギャップが生じています。そのギャップから大人社会においてさえ数々の問題が発生しているのですから、子どもたちのコミュニケーション環境へのインパクトは非常に大きいものがあると思われま

す。トラブルに巻き込まれるのは、一概に利用時間が長い人とは限らず、「情報社会での身の処し方」が身に付いていない場合です。情報社会の身の処し方とは、「携帯電話がもたらす問題」を想定できるだけの、物事の理解力や判断力、自制心、公共心が十分に育っているかどうかということです。そういう意味では、子どもに携帯電話を持たせる場合、携帯電話はあくまで保護者の所有物で「子どもに貸し与えている」という意識を持つことが大事です。

50年前、テレビ受像器が家庭に普及し始めた頃、視聴率競争が番組低俗化に拍車をかけて

「一億総白痴化」が唱えられましたが、依然、その問題は解決したとは言えません。新たな情報メディアが生み出され、コミュニケーション環境が便利になる一方で、それに伴う問題やトラブルが発生することは避けられないようです。

#### 5. 携帯電話を話題にできる親子関係が生命線

文科省が学校への携帯電話の持ち込みを禁止したり使用を制限するのは、学校にいる間学習に専念させることがねらいで、子どもを携帯電話から切り離すことではありません。

それに、今は保有しなくてもいずれ携帯電話との関わりを持つ時期が訪れます。むしろ、この時期に携帯電話を通じて情報社会での身の処し方を身に付けておけば一生の財産となります。

携帯電話を話題にできる親子関係が、問題やトラブルから子どもを守る生命線となります。しかし、現実には、わが子が情報機器の操作に慣れているから大丈夫とか、利用料金の上限を約束する程度の話し合いで、安易に渡してしまっている場合が多く見受けられます。

「夜間の一人歩き」「場面に応じた言葉遣い」「お金の無駄遣い」等と同様に、携帯電話の利用をめぐる様々な場面を想定して親子で話し合う機会を多く持つことが大切だと思うのです。

本記事を作成するにあたり、次の資料を参考にしました。

「子どもとケータイ」モバイル社会研究所 2008

モバイル社会白書 2007

## 甲州市甘草屋敷子ども図書館 「絵本クラブ」の活動

平成14年、甲州市立塩山図書館分館「甘草屋敷子ども図書館」が開館したのをきっかけに、「絵本クラブ」は活動をスタートしました。

以来、7年間、子どもたちに読書の楽しさを伝え、子どもたちの感性や想像力を豊かに育てる案内役として活動を続けてきました。

「読み聞かせのプロ」を目指して、特別顧問の藤巻愛子さんの指導を受けて修練を重ねてきた結果、読み手の人柄や個性、ユーモアが絵本やわらべ唄のすばらしさを引き出すことに気がきました。



地道な努力は、わらべ唄を口

ずさみながら絵本を抱えて帰路につく親子の姿となって表れます。毎月2回水曜日に行う定例の読み聞かせが年間24回、その他に、市内の各所にある「子育て支援センター」や「子育てサロン」での読み聞かせが39回、5つの小学校での朝読書が延べ92回(2007年度)と、活動の要請は年とともに増えて18人のメンバーは大忙しです。

この日、甘草屋敷と子ども図書館は、辺り一面に白梅や紅梅の香りが漂い、各部屋いっぱいのひな飾りが春の到来を演出していました。



図書館の中も春の装い

# 地域教育推進事業をふり返っ て

